

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 こもれび棟 )

事業所番号	0672700325		
法人名	医療法人社団 緑愛会		
事業所名	グループホーム満天の家		
所在地	山形県西置賜郡小国町大字幸町6-1		
自己評価作成日	平成 21 年 10 月 30 日	開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一言で言うと、笑顔で明るいユニットです。職員は利用者に元気・笑顔をいただき、職員も利用者に元気に笑顔で対応しています。職員は利用者のことをととても良く考え、些細なことでも話し合い、こまやかなケアを目指しています。認知症ケアの発信地としてアイデアを活かし、地域に向けた活動を展開しつつあります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 21年 11月 25日	評価結果決定日	平成 21年 12月 21日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所に独自の理念を掲げ、ユニット内に掲示している。また、利用者一人ひとりのその人らしさを大切にし、個別ケアを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、早朝の花植え作業等の地域行事に参加すると共に、GHの行事も回覧し、地域の方々に参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、公民館長や民生委員の方々と情報交換を行い、地域に役立つことがないか話し合いを持っている。また、認知症を理解していただけるように、地域に向けて認知症に関する寸劇を開始している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、その都度、取り組み状況等について報告を行っている。また、出された意見を参考にし、更なるサービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や町の高齢者部会にて話し合いを持ち、事業所の状況やケアサービス等の取り組みを報告している。また、日頃から連絡も密に行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけた工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	全体会議にて「身体拘束」について勉強会を行い、正しく理解している。ユニットの玄関には鍵はついてなく、身体拘束も行っていない。しかし、著しく転倒の危険性がある方に対しては家族の了解のもと、ケアプランに盛り込み、センサーを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議にて、「虐待」についての勉強会を行い、学んでいる。利用者の権利、グループホームの倫理綱領を明示し、職員一人ひとりが防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議にて勉強会を行い、学ぶ機会を持っている。以前であるが、成年後見人制度をお一人の方が利用されていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を基に、利用者や家族等が不安・疑問がないように事業所の説明を十分に行い、理解・納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議だけでなく、面会時にもお聞きしている。ユニット入り口前に、意見箱を設置し、常に意見・不満・苦情の吸い上げを行っている。また、家族交流会を催したり、運営推進会議にも参加していただいている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月毎の全体会議・ユニット会議、毎日のミーティングにて、意見・提案を聞く機会を常に設けている。また、個人の目標管理を基に、毎月、個別面談を行い、意見・提案を聞き、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが目標管理において実績の管理を行い、それを把握し、処遇に反映させている。やりがいのある職場にするため、職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修会やこやまケア研修会、東ブロック研修会、管内の法人交換研修会等に参加している。また、県社協やGH協会の研修会にも積極的に参加している。全体会議においても職員が講師となり、勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	町のケアスタッフを対象とした勉強会に参加したり、認知症ケアについての寸劇を他事業所と共同で行うことで、町の他事業者との交流を図り、ネットワークづくりを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みがあった場合は相談内容をお聞きし、パンフレットを用いてGHの説明を行い、GHの様子を実際に見学していただいている。訪問を行い、ご本人の困っていること、不安なこと、心配なこと、要望等をお聞きすると共に、意思の確認を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みがあった場合は相談内容をお聞きし、家族等が困っていること、不安なこと、心配なこと、要望等を確認し、関係づくりに努めている。必ず、GHの見学をしていただき、GHがどんなものであるのか見ていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のそれぞれの状況・状態等を考慮し、GHの利用開始が適切であるかどうか、必要としている支援は何であるかを見極めている。ご本人とご家族の実情をふまえ、必要に応じて他事業所の利用の調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりがその方にあった役割りを持たれ、共に助け合って生活をしている。また、職員は利用者を介護される立場には置かず、共に生活を送る同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にし、面会時には近況報告等を行い、良い関係作りを行っている。何かあった場合はご家族にすぐに相談し、共に支援策を考え、ご本人を支えていく関係を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り馴染みの理・美容院を利用するようにし、また、病院も今まで通院していた病院を受診できるように努めている。家族・親族・知人との関係を継続できるように、気軽に訪問できる雰囲気作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常時、共同で利用できる場所を提供している。一人ひとりの利用者が孤立せず、なおかつ利用者同士が対立しないよう、職員は利用者同士の関係を把握している。職員が常に利用者の会話・表情に気を配り、利用者同士が良好な関係を維持できるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も病院に面会に行き、今までの関係を大切にしながら家族にも必要なフォローを行った。また、特養へ入所となった方に対し、情報の提供を行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃の会話時、ケアプランの変更時に、希望・意志の確認を行い、把握に努めている。家族にはケアプラン変更時に必ず確認をしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・親族・知人・ケアマネ等より、利用者の生活歴・暮らし方・生活環境等を情報収集し、サービス利用に至るまでの経過等の把握を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間アセスメントシートを使用し、一人ひとりの一日の過ごし方・心身状態・残存能力の現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン変更時は本人・家族・担当職員・他職員等の話し合いによって、利用者がその方らしく、より良い生活を送れるように意見・アイデアを出し合い、ケアプランを作成している。モニタリングを月1回行い、常時、見直しが必要であるか確認している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアを行い、日々の様子・ケアの実践・結果・気づき等を介護記録に記入すると共に、毎日のミーティング・申し送りノートにて情報を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの行事の際にボランティアの受け入れを行ったり、地域の行事への参加(神輿周り)、地域の方々が作った野菜の移動販売での購入等で四季を感じていただき、暮らしを楽しめる支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時、本人・家族の希望を確認し、その希望に応じて適切な医療を受けられるように努めている。かかりつけ医へ受診する際に通院介助を行い、利用者の状態報告を適切に行うことで、医師と事業所の信頼関係を築いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎日のバイタルチェックや関わりの中で、利用者の変化で、少しでも不安や心配がある場合は併設しているDSCの看護職員に相談し、診ていただき、一人ひとりの利用者が適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は介護サマリーを作成し、主治医・病棟看護師等との情報交換を蜜にし、関係者との関係づくりを行い、利用者が安心して治療できるように、また、できる限り早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については本人・家族に前もって確認している。可能な限りその方らしくGHでの生活を送っていただきたいが、重度化した場合や終末期においては随時、本人・家族の意向を確認・尊重しながら、主治医との話し合いを持ち、方針を決定・共有している。特定の疾患について、医療保険を使用しての訪問診療や訪問看護を受け、ターミナルにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急マニュアルを理解・把握し、緊急時や事故発生時に対応できるようにしている。また、今年度も全職員が普通救命講習を受講し、実践力を身に付けている。応急手当普及員がいることで、事業所でも講習会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中だけでなく、夜間想定避難訓練も定期的に行い、全職員が対応できるように訓練している。また、総合避難訓練には地域の方々も参加していただき、協力体制を築いている。また、災害の発生時に備え、食料や飲料水などの備蓄を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は行っていない。また、個々の人権・人格を尊重し、「こよまケア」を実践するべく、自己評価を行い、自らのケアについて確認を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの思いや希望を大切にし、本人が思いや希望をあらわせるように働きかけや声かけを行っている。また、理解力に応じた説明を行い、思いや希望に応じて外出等を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先することはせず、利用者個々の思い・気持ち・ペース等を大切にし、体調やその日の天候などに合わせながら希望に添って過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりがその方らしい身だしなみや服装ができるように、声かけ・介助を行っている。美容院・理容院は在宅時からの馴染みの店に出向き、また、希望によっては近所の理容師・美容師にホームに来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方に献立を考えていただき、好みの食事を摂っていただくときもある。季節の旬の食材を使用し、献立を作成する事で季節を感じながら、楽しんで食事を摂っていただいている。できることを無理のないように、利用者と職員と一緒に準備・食事・後片付けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー・栄養バランスを考慮し、バランスチェック表を活用しながら、不足な栄養がないように献立を作成している。水分チェック表を記入し、一人ひとりの飲水量を把握している。摂取量の少ない方の食事摂取表を個別に記入することで、少ないときは補食を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼食後に酢水にて口腔ケアを行っている。また、個々の口腔状態・残存能力に応じて口腔ケアを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターン・習慣を把握し、利用者からの声がけや時間を見ての職員のさりげない声がけにてトイレ誘導を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、水分をなるべく摂取していただくように声がけを行い、1回の水分摂取量が少ない方にはこまめに摂取していただいている。野菜を多めに献立に取り入れたり、毎日、ヨーグルトを摂取していただいている。運動や散歩等で身体を動かし、予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間を決めたり、職員の都合や無理強いによつての入浴は行っていない。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴にお誘いしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調・状況に応じて休息を促したり、利用者が自ら休まれたりしている。安心して眠っていただけるように声がけを行い、支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時には薬局より説明書を出していただき、職員に周知し、薬の目的・副作用・用法・容量等を確認している。服薬時には名前を呼び、薬の袋の名前・顔を確認後、服薬していただき、飲み込むまで確実に確認を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や残存能力を活かすことで、その方に合った役割りを見つけ出し、張り合いのある生活を送っていただいている。外出・外食・ドライブ等を行うことで、気分転換を図っていただいている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調・状況・希望に応じて、買い物の支援や外出・外食・ドライブ・散歩等にお誘いし、戸外に出かけている。本人の希望を把握し、家族・兄弟等の協力を得ながら外出を行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中で、お金の自己管理が可能な利用者には支援を行いながら金銭管理をしていただいている。希望に応じて買い物もされ、支払いを行っている。自己管理が困難な利用者には希望されるときに使用できるように支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族よりハガキ・荷物が届いたときなど、特に遠方の家族に対し、積極的に電話の支援を行っている。また、電話の希望をお聞きし、電話をかけ話をされている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に利用者の写真やGHだより、季節毎の草花を飾ったり、飾りつけを行い、家庭的な落ち着きのある雰囲気を作り、居心地良く過ごせるように支援を行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの利用者が独りになれる居室を提供している。フロア内の端にベンチを置き、独り、もしくは気の合う利用者同士でゆっくりと過ごせる居場所づくりを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、自宅で使用していた家具や使い慣れたもの、好みのものを持ってきていただき、安心して居心地良く過ごせるように工夫を行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の自立した生活を支援するためにフロア内に手すり・トイレ内に上下式の手すりを設置している。また、居室前には本人の表札と写真を表示することにより、わかりやすくなり、タンスなどにシールをつけることにより、自分で整理をしやすくなるなど工夫を行っている。			